

船舶事故調査報告書

平成21年11月5日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 長 後 藤 昇 弘
委員 楠 木 行 雄
委員 横 山 鐵 男（部会長）
委員 山 本 哲 也
委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	平成21年7月10日 11時00分ごろ
発生場所	北海道根室市花咲港西浜ふ頭岸壁 (概位 北緯43°17.1′ 東経145°34.7′)
事故調査の経過	平成21年7月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第五十八伊勢丸、159トン 127121、アラマタ水産株式会社 32.47m(Lr)×6.20m×2.83m、鋼 ディーゼル機関、588kW（漁船法馬力数）、昭和59年2月
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 三級海技士（航海） 免許年月日 昭和50年7月25日 免状交付年月日 平成21年3月25日 免状有効期間満了日 平成26年3月24日 一等航海士兼通信士 男性 62歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和45年5月8日 免状交付年月日 平成17年5月10日 免状有効期間満了日 平成22年6月27日
死傷者等	死亡 1人（一等航海士兼通信士）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長、一等航海士兼通信士（以下「一航士」という。）ほか14人が乗り組み、さけ・ます流し網漁を終え、根室市花咲港西浜ふ頭岸壁に着岸して、平成21年7月10日05時20分ごろ、水揚げを開始した。 本船は鮮魚の水揚げを終え、一航士はひとりで船首楼甲板において、塩漬け及び冷凍魚の水揚げ準備のためウインドラスの試運転を開始した。 11時00分ごろ、船長は、操舵室において、船体がガクンガクンと揺れるのを感じて異常だと思い、甲板員にウインドラスを止めるよう指示すると同時に、甲板員がウインドラスの方に向かったところ、一航士がウインドラスの水揚げ用ドラムとロープの間に巻き込まれていた。 一航士は、搬送された病院で死亡が確認され、顔面粉砕骨折及び脳挫傷

	により瞬時に死亡したものと検案された。	
気象・海象	気象：天気 雨、風向 東、風力 4、視界 普通 海象：波 ほとんどなし 特記事項：根室全域に、雷、強風、波浪及び濃霧注意報発表中	
その他の事項	一航士は、以前から水揚げ作業を行う際は、船首配置についてウインドラスの操作を担当していた。 一航士は、カップを着用していた。 一航士は、身長166.8cm、体重65.4kgで、体調不良の訴えはなかった。 死因の他、左前腕複雑骨折及び肋骨骨折も検案された。	
分析	乗組員等の関与	不明
	船体・機関等の関与	なし
	気象・海象の関与	不明
	判明した事項の解析	死因は顔面粉砕骨折及び脳挫傷であった。 一航士がドラムとロープの間に巻き込まれた理由は、明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が花咲港西浜ふ頭岸壁において水揚げ準備中、一航士が、船首楼甲板においてウインドラスの操作を行っていた際、ウインドラスのドラムとロープの間に巻き込まれたため、発生したものと考えられる。	